春・秋連結　｜　今出川校地開講科目

「子育て×働く」のリアルを探求するキャリア教育プロジェクト

1 目的・概要

「子育て×働く」のリアルを探求するライフキャリアプロジェクトは仕事と育児の両立のリアルを知ることを通して、履修生自身が自分らしいキャリア選択について考え、そして人生の選択を広げることを目的としたプロジェクトです。

社会に出てキャリアを歩んだことも子育てもしたことのない学生の私たちが、少しでも自分たちの将来をリアルに想像して描けるように活動を進めました。「何を」「どう」進めるかが履修生に委ねられているプロジェクトだからこそ私たちの単純な疑問を解消するところからスタートしました。

春学期は「インプット」をメインで行い、秋学期は春学期のインプットとワーク＆ライフ･インターン（子育てと仕事の両立体験）を基に学生に向けたアウトプットをメインで行いました。活動を通して得た学びを自分たちだけの経験にするのではなく、同じように将来に対して漠然とした不安を抱いている学生や、将来を具体的にイメージする機会がなかった学生に向けて、座談会や冊子作成を通じて発信しました。

Annual Schedule

2021 年	4 月	参加生の科目履修目的の確認と関心事項の発表・目標設定（仮）
	5 月	事前学習（企業＆行政・子育てサービス・海外）
	6 月	ヒアリング調査
	7 月	ヒアリング調査・春学期成果報告会準備
	9 月	秋学期の流れ確認・ワーク＆ライフ・インターン事前準備・最終目標確認
	10 月	ワーク＆ライフ･インターン･座談会準備･アンケート作成・冊子作成
	11 月	座談会準備・アンケート実施・冊子作成
	12 月	座談会開催・成果報告会準備・1 年の学びの振り返り・冊子配布
2022 年	1 月	秋学期成果報告会準備・1 年の学びの振り返り・冊子読者のアンケート実施

2 成果達成度

春学期の活動について

まずは「子育て×働く」について興味のある分野の 3 班に分かれて調べ学習をしました。1 班は子育てサービス、2 班は企業や行政の子育て制度について調べ、3 班は 1、2 班が調べた内容を海外と比較をしました。現在様々な企業が提供している子育てサービスの種類や、利用状況、自治体による子育て支援制度やサービスが違いについて知りました。また、男女ともに育休取得率を上げるための取り組みをしている企業がある一方で、男性の育休取得が難しい現実も明らかになりました。海外と比較すると育休制度の充実度は日本も比較的高いにも関わらず、特に男性の育休取得率は低いということが分かりました。知っているつもりでも改めて調べてみると、意外と知らなかったり、誤解していたことなどが多くありました。

次に、調べたことを共有し、各々気になるテーマごとに新たに班を再編しました。そして、①子育てと仕事を両立している女性、②育休を取得した男性、③育休取得を推進している企業の方など 4 人の方にヒアリング調査を行いました。実際に子育てと仕事を両立している方のお話を聞き、そこから感じた疑問にもたくさん答えていただきました。親の視点での子育て制度やサービスの利用への感じ方や子育てと仕事の両立をする中での体験談などは新たな発見も多く、大学生のうちに何をすべきなのか、どんな情報が必要なのかを考えるきっかけにもなりました。

ヒアリング調査後は、春学期成果報告会に向けて準備を行いました。メンバーで役割分担して初めての成果報告会を終え、自分たちの思いを多くの人に伝えることが出来ました。

秋学期の活動について

秋学期のはじめに 4 家庭にのべ 6 日程でワーク＆ライフ・インターンに参加し、子育てのリアルや工夫点、子どもとの関わり方を肌で感じました。春学期は調べること、ヒアリングを中心に行ったので、実際に目でみて、肌で感じる「リアル」はより私たちに響いたように感じます。中には、自身が育った家庭環境と全く異なる家庭に出会い、戸惑いを隠せない学生もいました。私たちは自身が育った家庭しか知らないため、培った「常識」は案外周りと違うことも多いのではないでしょうか。「こうするべき」や「こうしなければならない」というような固定観念は、より俯瞰して周りを見てみることで脱することができるのだと感じます。

ワーク＆ライフ・インターン後、春学期を含め今まで吸収したことをどう活かすかということを話し合いました。春学期はじめに設定したプロジェクトの目的をより具体化し、「誰」に「何」を「どのように」発信するのか、参加生同士で意識のすり合わせを行いました。そして、「これからキャリ

アを選択する学生」に「子育て働くことのリアルや、将来的に役立つサービス情報、将来に対する学生のリアルな声、人生の先輩からのメッセージ」を「座談会や冊子」を通じて発信することに決定しました。

座談会では、将来に漠然とした不安を抱く学生や、自身のキャリアを見つめてみたい学生に参加してもらいました。ゲストには子育てをきっかけに起業した男性、専業主夫、育児をしながらキャリアを追求している女性の 4 人をお呼びし、参加学生からも「両立に対して気が楽になった」という声や「男性こそ育児について真剣に考えてみた方がいいと気づいた」という意見を頂き、満足度もとても高く、次回開催を心待ちにしているとの感想もありました。このように少しでも多くの学生が自分たちの「人生」について考え、「選択肢」を得ることができる場は有意義だと感じます。

3 プロジェクトを通じて

今まで自分にとって家庭のモデルは自分の家庭のみでしたが、このプロジェクトでのヒアリング調査やワーク＆ライフ・インターン、プロジェクトメンバーの話から本当に様々な家庭の形があることを知りました。それまで私は、なんとなく男性の育休取得率を上げたり、子育てサービスの充実が正解のゴールだと考えていました。しかしプロジェクトを進めていく中で必ずしも正解があるのではなく、すべての人がそれぞれ望むライフプラン、キャリアプランを選べるようにすることが重要であると気づきました。

これからのキャリアに対して不安が完全に消えたわけではありませんが、選択に悩んだときに「こんな選択肢もあったな！」とプロジェクトで学んだことを思い出して少しでも人生の可能性や選択肢が多く持てるように歩んでいきたいと思います。

編集後記

学生成果報告書を書くにあたって、これまでのプロジェクトを振り返って見ると自分がプロジェクトに参加する前に想像していた以上に充実した一年になったと感じました。そしてこのプロジェクトのために多くの人にご協力いただいたことにも気づきました。一年間プロジェクトを見守って下さった戎先生、SA の岩崎さん、ヒアリング調査やワーク＆ライフ・インターンにご協力いただいたご家庭の方々、アンケートに答えて下さった学生の方々、PBL 事務局の方々、そして一緒にプロジェクトを走ったプロジェクトメンバーの皆さん、すべての方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

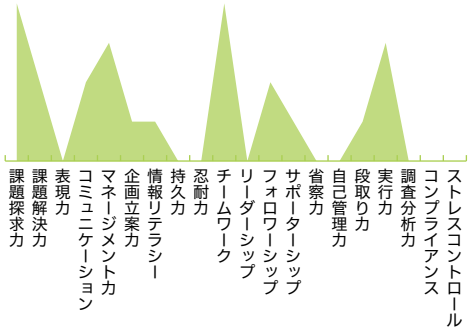
プロジェクトメンバー

岡松 穂波（神2）　吉田 美輝（文3）　松川 来未（文3）　古瀬 朱理（社会3）　福田 瑞希（社会2）　池田 愛悠（商3）
乾 優菜（政策3）　向川 明希（グローバル地域文化3）

プロジェクト活動 アンケート集計結果

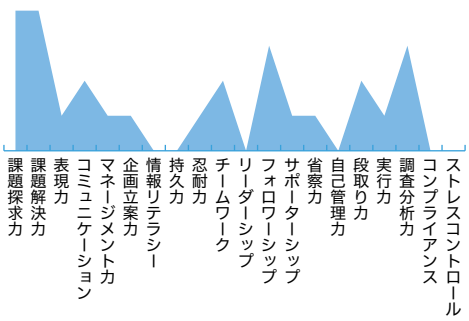
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

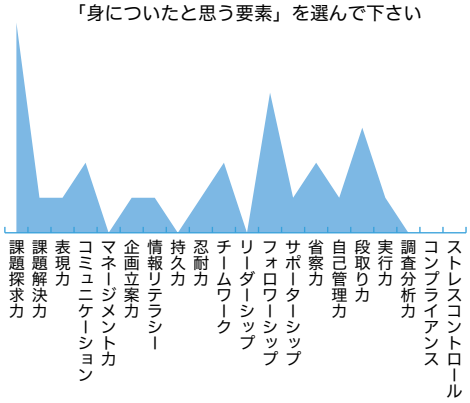


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

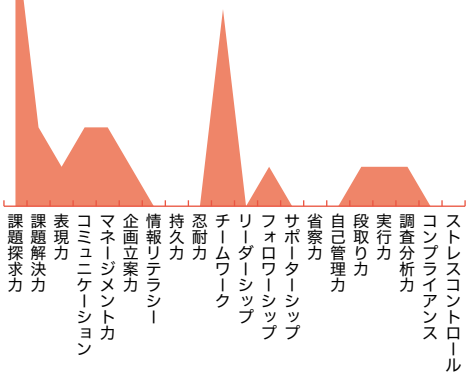
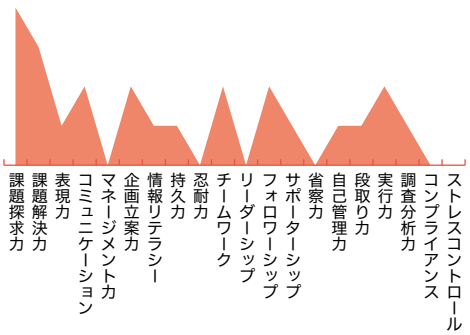


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい